

まず、大学スポーツ全体についてですが、昔は大学スポーツが全日本のスポーツの頂点でした。ところが、現在はマラソンにしろ駅伝にしろ、全体のレベルが非常に高くなっている中で、大学スポーツの地位が低下しているように感じています。ですから、本学としては箱根駅伝、ラグビー、野球など、かなりメジャーなスポーツに絞り込んで、より強くしていく戦略をとることも必要でしょう。中国が強い卓球のように、スポーツを通じて海外との親交を深めることも

## 大学スポーツを応援しよう。

必要かと思えます。

また、全国には無名でも優秀な選手が、たくさんいると思います。そういう選手の情報を、全国の多くの校友が積極的にお知らせいただければと思います。私は全国各地の支部総会に出かけますが、「本学のスポーツが弱い！」と苦言を呈される方にお会いすることがあります。しかし、そうした方から、「こんないい選手がいる！」などの情報をいただくことは、あまりありません。地元の学生やスポーツの情報を提供していただければ、大変ありがたいですね。もちろん、体育会の監督さんやスタッフは、常にそうした情報に注意していますが、それにプラスしてわれわれもサポートしていければと考えています。それが、本学のスポーツを強くする「力」になると思います。

強化するスポーツを3つくらいに絞ったら、というお話をしましたが、それに漏れたスポーツについては弊害が出るかもしれません。そこ

で、校友会の各支部が応援団とでもいいですか、物心両面でサポートする組織をつくったらどうでしょうか。箱根駅伝の場合、応援するために3,000本の旗をつくろうという動きが自然発生的に起こり、募金をして実際に旗をつくったという事例があります。体育会のOBはもちろん校友の方々、あるいは地元の方々などが一緒になって、そのような応援や支援ができたらと思います。

神宮球場や昭和公園などへ観戦に出かけ、本学の校歌や応援歌をみんなで唄う……、そうしたことが母校愛につながっていきます。本学の学生が校歌を知らない、応援歌を知らないというのでは、せっかく専修大学に入学して不幸だと思います。もっと知ってもらうための場や機会を増やすのも、校友会や大学の役割だと思います。

今、本学は非常に良い方向に向いていると思います。ひとつは創立130周年を迎えて『蒼翼の獅子たち』が出版され、この本の映画化『学校をつくろう』の製作、さらに黒門の復元など大いに盛り上がっています。今後、スポーツから始まり校友会、本学全体への大きな活動、イメージアップへと、つなげていきたいと考えています。(談)



専修大学校友会 副会長

### 桃野直樹

ももの なおき ●1967 (昭和42) 年、法学部法律学科卒業、1944年生まれ。北海道出身。卒業後は日拓観光入社。昭和47年、東日本住宅設立。現在、代表取締役 社長はじめ(株)日本住宅建設産業協会理事、(学)専修大学評議員、理事、校友会副会長などを兼務。座右の銘は「努力に無駄なし」。

## 校友会からの情報発信。



神田校舎1号館地下1階学生ホール

情報発信や情報交換は、ますます重要になっています。校友会では在校生にも校友会活動を知ってもらい、『アドニス』に親んでもらうために専用の掲示板とラックを、神田校舎と生田校舎に設置しました。『アドニス』の記事の一部を掲示したり、自由に持ち帰ることができるようになっています。



生田校舎9号館1階エントランスホール